

くるしかった昔 平和な今

糸満市立米須小学校 三年 長 椿

五月十一日、私たち米須小学校三年生は、校区たんけんに行きました。私が、校区たんけんで一番心にのこっている場所は、こんぱくの塔です。こんぱくの塔は、金じよう和信さんがみんなに、

「塔を作って、せんそうでなくなった人たちをねむらせてあげよう。」

と、よびかけて、塔を作ったそうです。金じよう和信さんは、せんそうのおそろしさをしているからこそ、せんそうでなくなった人たちの塔を作ろうと呼びかけたんだと思います。

一番心がいたんだことは、山の上の塔で、おきなわ県のほかの県の人も米須のせんそうでなくなったことです。この話を聞いたとき、私は、心がとてもいたみました。そして、米須でなくなった人たちはみんな、いっしょうけんめいたすかろうとして、米須までにげてきたんだなーと思いました。

そして、とてもかわいそうだと思ったことは、ちゅうれいの塔にねむっている、米須にすんでいた家族です。わけは、先生に、

「ちゅうれいの塔には、米須にすんでいた九十五の家族がなくなっているんだよ。」と、聞いたときに、

「もし今、せんそうがおきていて、自分の家族がなくなっていたら、どんな気持ちだろう。」

と、ふと思ったからです。わたしは家族が大好きです。だからもっと家族となかよくしていきたいです。

私は、平和な今が大好きです。「平和」という意味は、はっきりわかりませんが、私はこう思います。家族で食じをしたり、友だちとあそんだり、学校に行ってまなんだり、書いたり、ねむったり、歌ったり、話したり：そのことすべてが、「平和」だと、私は思っています。せんそうでなくなった人びとはみんな、平和なままがよかったとっていたことでしょう。アメリカ人と日本人が、なぜせんそうをはじめたかは、わかりません。今の私たちにできることは、これいじよう、せんそうをおこさないことです。そのためには、やさしい言葉を使うことをど力しつづけます。そして、おきなわ県のほかの県の人たちにも、せんそうのおそろしさをつたえていくことが、せんそうをなくす大切なおこないだと思います。戦争でなくなった人びとも、私たちの生きている今の平和をねがっていると思います。その思いにこたえながらも、今、私たちのできることをど力しつづけることが大切です。